

学習の手引き

【令和 8 年度版】



つるぎ町立半田中学校 年 番

氏名

1 はじめに

「あなたの夢は何ですか。」「あなたが将来就きたい職業は何ですか。」中学校では、自分の将来を考える機会が増えるものです。そして卒業後、自分の選んだ進路に進みます。夢に向かって進路を拓いていくためには、3年間で計画的な学習を積み重ねて、心や体の成長とともに学力を高めることが必要です。それには、学校での勉強も家庭学習もどちらも大事となるのです。

そこで、学習成果を上げるための手立てになればと考え、この手引きを作成しました。まずは実践してみませんか。また、家庭でも相談しながら取り組んでみませんか。

2 学校での勉強について

(1) 授業の取り組み方

いうまでもなく、授業が基本です。毎時間の授業を大事にすることが、基礎・基本の定着への近道であり、応用力をつけるための原点です。何となく50分を過ごすのか、集中した50分を過ごすのか、同じ50分で得るものには大きな違いがあります。そこで、毎時間の授業を大事にするために、次の「5つのチェック」を心がけてみましょう。

《5つのチェック》

① チャイムで授業が始められるように早めに着席しておく。

授業への態勢が整っていないと、スタート時点から慌ててしまいがちです。チャイムと同時に、授業に臨む気持ちや姿勢を整えておきましょう。

② 準備物・提出物を忘れない。

教科書やノート、筆記用具等、授業に必要な物は、休み時間に整えておきましょう。やる気があっても道具がなければ満足な学習成果は得られません。また、宿題等の提出物に地道に取り組むことで、繰り返し学習ができ、粘り強く学習する姿勢が育ちます。

③ 授業に集中する。

気を緩めると何を勉強しているのか聞き逃してしまいがちです。聞き逃してしまった学習内容の上に学習を積み重ねようとしても、理解することは難しいです。ひと言も聞き逃すまいという気持ちで取り組みましょう。

④ ノートを工夫する。

わかったつもりでいても時間が経つと忘れてしまうことがあります。あとで復習するときの参考にするためにも、授業内容をノートに記しておきましょう。また、板書にない事柄でも、先生のひと言には大事な内容が含まれています。聞き逃さず書き留めておきましょう。

⑤ 発表・活動に積極的に参加する。

意見を交わしたり自分からすすんで取り組むことで、新たな気づきがあったり、より深く学習することができたりします。また、集中力を切らさないことにもつながります。

(2) テストの受け方

学習した内容の定着度や、自分の今後の課題を知る機会の1つにテストがあります。テストは大きく分けて、定期テスト・校内テストの2種類です。

定期テストとは、各学期にあるテストです。1、2学期にはそれぞれ期末テスト、3学期には学年末テストが実施されます。それぞれの期間内に学習した内容がテスト範囲となって、授業内容を振りかえることができます。

校内テストには、夏休みなどの長期休暇明けに行われる課題テストや、中学校に入学してから現在までの全範囲から出題される実力テストがあります。継続した学習の積み重ねが問われる内容となっています。

そこで、悔いなく自分の実力を100%発揮するためには、まずテストを受けること自体に不安を感じないようにすることが必要です。テストの受け方を知らなければ、テスト中にとまどってしまうかもしれませんし、逆に受け方を心得ていれば、落ち着いて内容に集中できるでしょう。留意点を確認し、心も頭も準備万端の状態で臨みましょう。

《テストを受けるときの留意点》*高校受験(受検)と同じ*

- ① 机の中はからっぽにし、机の横に何も吊らない。
- ② 机の上には、必要な物だけ置く。
… 鉛筆(シャーペン)2~3本・消しゴム・定規・コンパス
※ころころ転がしたり、落としたりしないこと。
- ③ 開始時間より少し前には、きちんと着席しておく。
- ④ 問題と解答用紙がそろっているか、確認する。
… 中学校のテストでは、問題用紙と解答用紙が別々になっていることが多い。
- ⑤ 解答用紙には、最初に「組・番・氏名」を必ず書き、落書きはしない。
- ⑥ 先に問題全体を見渡し、取り組みやすい問題から解く。
… 1つの問題で悩みすぎないこと。
- ⑦ 時間の配分を考えながら解く。
- ⑧ 目線は、自分の机の上のテストか、前方にある時計だけに向ける。
… 人のテストを見ない。きょろきょろしたり、不正行為と疑われたりするようなことはしない。
- ⑨ 時間いっぱい、取り組む。
… 時間が余ったら、繰り返し見直す。粘り強く最後まで取り組む。
- ⑩ 正しい姿勢を保つ。
… 机に突っ伏したりもたれたりしていると、眠くなる。また、真剣にしていけないのではと勘違いされやすい。
- ⑪ 終了のチャイムと同時に、速やかに鉛筆(シャーペン)を置く。

さあ、これでテストに臨む姿勢は整いました。あとは自分のもっている力を存分に発揮するだけ。ただし、「テストを受けたらそれでよし！」ではありません。大事なのは、テストとは自分の実力を知ることはもちろん、さらにその実力を高めるためにあるものだということです。受けたテストは、必ず自分の手元に返ります。そのとき、きみはどうするか…！もちろん、間違えた問題やあやふやだった問題を、納得するまで繰り返し解き直しますよね。ここで諦めずがんばり抜く根性は、将来仕事をする際にも、生活のどんな場面にも、絶対不可欠です。どうか、自分を高める努力を怠らない誠実さを、テストを含めたあらゆる学校生活から学び取ってほしいと願っています。

3. 家庭学習について

人は忘却する生き物であり、繰り返し学習することで記憶します。授業内容を深く理解し定着させるために、家庭学習が大きな役割を果たします。

本校では、家庭で毎日学習する習慣を身につけ学習成果を上げるため、「自主勉強ノート」や「生活記録」に取り組んでいます。「自主勉強ノート」では国・数・社・理・英の教科学習力を高め、「生活記録」では1日を内省し文章化しています。

次に挙げる(1)「家庭学習のポイント」や(2)「自主勉強ノートの活用の仕方」、(3)「教科別学習のポイント」を参考にして、自分にあった学習方法を見つけ、工夫しながら取り組みましょう。また、家庭でも相談して学習に適した環境作りに協力してもらいましょう。

(1) 家庭学習のポイント

① 1週間の生活リズムをつかもう。

部活動や各種塾等で、毎日忙しい生活を送る人も多いはず。1週間の生活の流れを確認して、家庭学習に費やせる時間の見通しを立てましょう。

② 学習計画を立てよう。

地道に毎日取り組める、着実な計画にしましょう。また、各教科のバランスや自分の得意不得意科目も考慮した計画にしましょう。

③ 学習方法を工夫しよう。

本をただ見るだけ、読むだけ、写すだけでは学習力は高まりません。

「見ながら声に出して言う」とか「声に出して言いながら書く」等、五感をしっかり働かせましょう。

④ 自分で調べよう。

わからない箇所は、すぐ答えを見たり誰かに聞きたくなったりするものです。しかし、楽をして得た知識は、忘れるのも早い。辞書や資料集、タブレット等を使って、可能な限り自分で調べてみましょう。

⑤ 宿題・ワークはその日のうちに取り組もう。

宿題やワークは、学習内容の再確認ができると同時に、自分の理解度を
知る手段の一つです。しかも繰り返し学習することによって基礎・基本が
定着し、応用力をつける原動力にもなります。後回しにせず、必ずその日
のうちに済ませましょう。

⑥ 「～しながら」学習はやめましょう。

テレビを見ながら、メールしながら、ゲームをしながら片手間に、とい
った勉強では集中力が散漫になるため、効果は上がりません。静かに勉強
に集中できる環境を整えましょう。

(2) 自主勉強ノートの活用の仕方

① 日付・学習時間を記入しよう。

記入することで、家庭学習時間の意識付けができます。どれくらいの時
間をかけたらどれくらいの学習ができるのか、自分を知りましょう。習慣
化されれば、上手な時間の使い方ができるようになります。

② 1週間単位で5教科全てに取り組もう。

時間のかからない、楽な勉強に逃げたくなるときもあります。ここが辛
抱のしどころです。自分の苦手な教科も必ず取り入れてこそその家庭学習で
す。例えば曜日によって教科を変えるのもいいですね。

(例：1週間の曜日順に、国・数・社・理・英・数・英)

③ 1日1ページ以上毎日取り組もう。

家庭学習等の時間の目安は、中学1年1～2時間、2年2～3時間、3
年3～4時間です。本校の皆さんは1ページの学習に、およそ30～50分
費やすようです。自主勉強ノートで、最低学習時間は確保できます。

④ 力のつく勉強をしよう。

ただ書き写すだけの勉強では、学習成果に進展は見られません。授業で
解いた問題を再確認したり、授業内容をまとめ直したり、また問題集をど
んどん解いていくノートにしましょう。黙々と取り組むよりも時には声
を出しながら、目・耳・口・手を同時に働かせる学習は効果大です。

⑤ 内容を進化・深化させよう。

毎回同じ事の繰り返し学習では、定着はしてもそれ以上の成果は得られ
ません。少しずつ、内容を変えたり、増やしたりして、着実に進歩してい
く学習を心がけましょう。

(3) 教科別学習のポイント

それでは、次の各教科の学習の仕方を参考に効果的な勉強を続けよう。

「継続は力なり」

国語科の学習方法



言語能力を高める生活

- ・ 国語科の「読む・書く・話す・聞く」の力が、すべての教科に必要な力であることは言うまでもない。その力を使って自分の思いや考えを「伝える」ことがこれからの生活には大切であり、自分の生き方を豊かにしてくれる。
- ・ 国語の学習は机に向かってだけするものではなく、日常会話や読書、一人でじっくり考える時など、日々の生活のさまざまな場面で国語力を高めることができる。相手にわかりやすく伝えることを意識したり、相手の話をよく聞いて言いたいことが何かを考えたり、文学作品を読んで想像をふくらませたりすることで、読解力や表現力・聞く力や話す力・考える力につなげていこう。

1 授業について

- ・ 忘れ物は絶対にしない。
- ・ ノートやプリントは丁寧に正確にまとめる。
- ・ 先生の説明や友達の意見をしっかり聞き、それに対しての自分の考えを持つ。
- ・ すぐ「わかりません。」とわず、まず自分の頭で考える。
(国語は知識を暗記する教科ではないので、心で感じ、頭で考えることが大事)
- ・ 自分の考えを自分なりにまとめ、文章に書いたり発表したりする習慣をつける。

2 家庭学習について

(1) 予習の仕方

- ・ 声に出して教科書を読む。
- ・ 読めない漢字や意味のわからない語句にチェックをいれ、辞書などを使って読みや意味を調べる。

(2) 復習の仕方

- ・ 学習した漢字を繰り返し書いて覚える。
- ・ 授業のノートやワークシートを見て、もう一度自分なりに重要項目をまとめる。
- ・ ワークやプリントの問題をもう一度やってみる。

(とくに間違った問題はなぜこの答えになるのかを考えて復習をする)

3 テスト対策について

(1) 漢字・語句

- ・ 漢字は一点一画を正確に書く習慣をつけ、繰り返し書いて覚える。
- ・ 四字熟語・対義語・類義語・同音異義語・同訓異字・慣用句・ことわざは意味を理解し、毎日少しずつ、こつこつと覚えていく。

(2) 文章問題

- ・ 文学的文章は登場人物の心情を問う問題が主になってくるので、情景描写・場面の变化・会話などから登場人物の心の動きを読み取っていくようにする。
- ・ 説明的文章は段落ごとの要点を的確にまとめる読み方が必要となる。キーワード(繰り返し出てくる言葉)や接続語、指示語に注目しながら段落から全体へと読み進め、主題を見つける。
- ・ 説明文の問題の答えは必ず文章の中にあることを忘れない。問いに合わせるように整えて答えるように気をつける。

(3) 古典

- ・ 声に出して繰り返し読み、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。
- ・ 場面を想像することで、誰の言葉か、どんな気持ちかを考える。
- ・ 表現技法を必ずチェックする。(係り結び・対句表現などは確実に覚える)
- ・ 作品名・時代・作者名は整理して漢字で覚える。

(4) 課題作文

- ・ 原稿用紙の正しい使い方を理解し、それに従って書けるようにする。
- ・ 文体(敬体・常体)の統一を意識して書き進め、話し言葉にならないようにする。
- ・ 段落内容(前段・後段の条件)を考え、問われていることに忠実に書いていく。
- ・ 常に時間を計り、時間内に条件の行数まで書ききれるように練習を重ねる。



数学科の学習方法

1 授業を大切にす

(1) 準備物を忘れない。

「学習に必要な物を持たずして学力が上がる」なんてことはあり得ません。

教科書、ノート、筆記用具、定規、コンパス等の準備を整えておきましょう。

(2) ノートを工夫する。

何につまずいて何をつかんだのか、後になって授業の内容を思い出す手段としてノートが重要な役割を果たします。板書をノートに写すことばかりに集中しては、先生の話聞き逃してしまうことになることが多いです。

ではどうすればよいか…。ノートを書くときに「先生の言ったこと“解くポイントはこれ”」「板書の内容はここ」と整理をする習慣をつけると授業にも集中し、情報を頭の中で整理して書けるようになります。

「聞く・見る」→「(整理して)書く」作業で活用型ノートをつくり、「黒板を写しただけ」のノートからステップアップしていこう。

(3) 提出物・宿題の期限を守る。

学習で習ったことをわすれない、定着させるために宿題があります。提出期限を守り、自分が意識して学習する時間をつくって繰り返し学習を習慣化することができます。

2 家庭学習をがんばる(復習を中心に!)

(1) 計算練習を欠かさない。

なんと言っても計算は数学の問題を解くカギ。毎日の計算練習だけは欠かさないようにしましょう。「計算問題を10分間解く」、「その日解いた例題をもう一度家で解いてみる」など、少しでも数学を復習する時間をつくりましょう。

(2) 計算の途中の式もきちんと書く。

どんな解き方をしたのか、計算の途中の式もきちんと書くことが大切。

答えが間違っていたら、どこでどう間違えたかをチェックすることが力をつけるもとになります。

(3) いろいろな法則や用語の意味を正しく理解する。

数学では、法則(共通の約束事)が土台になっています。この約束事や用語の意味は正しく覚え、守らなければなりません。

(4) わからないことをそのままにしない。

数学は積み上げの教科で、学習したことがらをもとにして、その上に次の段階の学習が行われます。つまり、わからない点をそのままにしておくと、次のステップの学習内容もよけいにわからなくなります。わからないままに先へ進まない学習をしていきましょう。

3 テスト対策

(1) ノートと教科書をチェックし直す。

自分がどこにつまずいたかは、授業ノートに残した間違い直しやチェックの跡を見ましょう。そこを重点的に取り組めば弱点克服!最低でもひと通りは解き直しましょう。

(2) 数学演習や提出課題をやり直す。

あまり難しくないと感じた問題ならひと通りでかまいません。以前間違えていた問題は、何度も解きましょう。

社会科の学習方法

1 授業について

(1) 予習をする。

教科書の文章や写真・グラフを見て気づいたことを書いたり、メモしたりしておく。

(2) 積極的に発表する。

- ・重要部分を色分けする。
- ・誤字、脱字に注意する。
- ・教師の口頭で説明したこともメモしておく。
- ・漢字を使うべきところは、しっかりと漢字で書く。

(3) 教師の説明に集中して耳を傾ける。

(4) 班活動では活発な意見交換をする。

(5) 資料の読み取りなどでは、自分なりの答えを書く習慣をつける。(自分の考えをもつ)



2 家庭学習について

(1) 教科書やノートを見て、習った重要語句を自主学習ノートに整理をする。

基本用語をしっかりと覚えるように反復学習をすること。

(2) 教科書の本文を読み、重要な部分に線を引いておく。

(3) 教科書にある資料に目を通す。資料の読み取りができるようにする。

(4) 宿題を確実に仕上げる。

(5) 各分野の勉強法

【地理的分野】

① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。

(例) 経度0度の経線を何というか。 → 本初子午線

② 地理的事象の因果関係をとらえる。

(例) 熱帯地域には高床の住居がみられる。 → 熱帯は年間を通して雨が多く、気温が高いため。

③ グラフや地形図の読み取り、時差の求め方などの技能を高める。

【歴史的分野】

① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。

② 歴史的事象の因果関係をとらえる。

(例) 日本列島に人類が移住 → 氷河時代、大陸と陸続きであったため。

③ 各時代の文化の特色をとらえる。(例) 国風文化 → かな文字の発達 → 源氏物語の完成

④ 時代の流れを理解できるように、日本や世界の歴史年表を作成する。

【公民的分野】

① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。

② 新聞やニュースを見る。※入試問題には、時事問題が出題されることもあります。



3 テスト対策について

(1) 教科書や図、写真から授業の内容やポイントを再確認する。

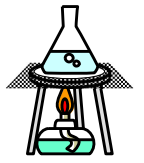
- ・本文の太字部分だけではなく、資料や写真にも注目する。

(2) ノートを読み直す。

- ・ノートを見ながら、さらに要点の整理をする。ノートには、基本的な内容が記入されている。

(3) テストブックやノートを確認して、気になったことは調べておく。

理科の学習方法



1 授業について

(1) 実験・観察に積極的に取り組みましょう

理科の学習の楽しみといえは何といても実験・観察です。実験・観察については次のことをきちんと押さえましょう。自分で予想し、調べ、そして考えることが大切です。

目的	→ 何のためにやるのか、何を調べるのか。
方法	→ 使う道具・薬品の名前や使い方、その手順。
注意点	→ 安全に行うために気をつけること。(テストによく出ます!)
結果	→ 期待通りにならないこともあるけれど、きちんと記録する。
考察	→ どうして結果がそうなったのか、説明ができるようにする。

(2) 先生の話をよく聞きましょう

実験・観察の説明や考察、いろいろな自然現象など、先生の話の中には大切なことがいっぱい。授業中に先生が言ったことで大切なこと、興味を持ったことをちょっとメモしておく役に立ちます。

(3) 板書や大切なことを、理科ノートにまとめましょう

ノートは後で見えてわかることが大切です。重要なところに線を引いたり、色を変えたりして、効率よく復習ができるようなまとめ方をしましょう。

2 家庭学習について



(1) しっかり復習しよう

わからないことを残さないように、忘れていないその日のうちに復習しましょう。理科ノートや探究の理科などの問題を解いてみて間違えたところを自主勉ノートに書くなど繰り返し学習しましょう。

(2) 教科書の重要語句を覚えましょう

さまざまな重要語句の意味を理解し、的確に覚えましょう。また、覚え方を工夫しましょう。

(3) 計算問題は繰り返し解きましょう

計算問題は、よく理解し、慣れることが大切です。問題を数多くこなし、何度も解きましょう。

3 テスト対策について

(1) テストの前には…

テスト範囲の理科ノート、探究の理科、プリントの問題を解き、間違えたところは、間違えなくなるまで繰り返し解いてみるのが大切です。わからないところは先生に質問しましょう。実験・観察については、目的・方法・注意点・結果・考察について確認しておきましょう。教科書の単元のまとめなどを利用し、大切な用語やポイントを押さえておきましょう。

(2) テストの後には…

間違えたところは、答えを確認し、次のテストで同じミスをしないようにしておきましょう。計算やグラフの問題など、複雑な問題は必ずやり方を理解し、わからないままにしておかないこと。

英語科の学習方法

1 授業について

- (1) 準備物を絶対に忘れない。
- (2) 何よりも授業を大切にす。
- (3) 先生の説明を集中して聴く。(書きながらでは集中できません。)
- (4) 板書を丁寧に素早くノートに写す。
- (5) 発音はとても大切。ALTの先生の発音をよく聞き、しっかり声を出して練習する。
- (6) 音読練習や会話練習でのペア活動やグループ活動に積極的に取り組む。
- (7) 長文和訳はその場面を想像し、ある程度予想して訳してみよう。
登場人物や数字、場所などを的確につかめれば一語一句完璧に訳せなくてもよい。
- (8) 提出物や宿題を必ず仕上げ、期限を守って提出しよう。

2 家庭学習について

(1) 予習の仕方

- ① ノートに、単語の意味調べと練習・本文の書き写しをする。
- ② 単語テストの単語練習、本文の暗唱など、宿題および出された課題の練習を、声に出してくり返し行う。

(2) 復習の仕方

- ① 板書を写したノートをもう一度授業を振り返りながら書く。
わからないところは、必ず次の日、先生や友だちに聞いて、理解する。
自分なりのまとめノートを作成することも一つの方法です。
(テスト前には、自分だけの参考書になります)。
- ② 英文・英単語を、しっかり声に出して読む。そして覚えるまで何度も書く。
- ③ プリントやワークなどの課題に取り組む。
わからないところは、必ず次の日、答えを確認し、先生や友だちに質問して、理解する。

3 テスト対策について

(1) 単語・連語・基本文

- ① ひたすら書いて覚える。ただ眺めるだけでは覚えることはできません。
声に出し、発音しながら勉強する。音読できない単語は書けない。

(2) 長文読解

- ① 基本は教科書です。何よりも授業中集中して、先生や友だちがどのように訳しているかを確認し、家でもう一度復習しよう。
- ② 常に「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」かをおさえながら訳していこう。
リスニング問題に関しても、それをメモすることが大切。

(3) 総合問題

- ① 宿題および課題に出されたプリントやワークを活用する。
問題集にも取り組もう。これなら自分にもできるという内容のものを選んでやりましょう。
解説が詳しいものの方がいいです。
- ② 間違えたところやわからなかったところは何度もくり返しやってみる。必ず学習の定着につながります。
- ③ 英作文に取り組む。教科書やワークの英作文問題や過去のテスト問題等にも再度取り組み、自分の考えを英文で表すことができるようにしよう。

(4) 聞き取り

- DVDで外国映画を見るとき、日本語吹き替えではなく、極力字幕スーパーで観たり、英語のテレビ(ラジオ)番組を積極的に観たり(聞いたり)するのもリスニングの力をつける方法です。
ALTの先生と、授業以外でも積極的に話し、英語での発音や表現の力を身につけていこう!みなさんの英語力を高めるために、ALTの先生がいてくださるのです。